

なぜ

# イエス・キリスト

だけ？

次の質問は答えられます。お楽しみにお読みください。

- 質問 1: どうして宗教は生まれたのでしょうか？
- 質問 2: 世界の宗教は罪の問題を解決できるか？
- 質問 3: 神様の救いの方法は何でしょうか？
- 質問 4: わたしは救われるために、何をすべきか？



# さあ、始めましょう！

## 質問 1: どうして宗教は生まれたのでしょうか？

簡単にいえば、もし人間は完全に善人であれば宗教は要りません。しかし、人間は神様の裁きに直面している墮天した罪人である。宗教の存在はこの悲惨な事実を証明しています。つまり、人は本能的にこの事実を知っています、そしてこのために世界が始まって以来、人は次々に宗教をつくり続けています。しかし、人の救いの方法は、神様の提供してくださる救いの方法と異なります。神様が提供してくださる救いの方法の代わりに、人は、いろいろな人生哲学、規則、法、道徳を守ることを通して自分を救おうとしがちです。

旧約聖書『創世記』によれば最初の人間と記されるアダムとイブは、天地創造の終わりに神様によって創造されたとされる。善人として創造されたがアダムとイブがエデンの園で罪を犯しました。そのあとのことを、我々は『創世記』第3章第7節と第8節で読むことができます。「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はイチジクの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間隠れた。」アダムとイブは、彼らが罪を犯したということを全くよく知っていました。しかし、神様に罪をかばってもらい救いを求める代わりに、二人は、イチジクの葉という外面で覆うなどと、自らの罪をつぐなおうと決心をしてしまったのです。そのうえさらに、神に向かって赦しを求めるよりむしろ、二人は神から隠れる決心をしてしまいました。

人は、それ以来、ずっとおなじことをしています。

## 質問 2: 世界の宗教は罪の問題を解決できるか？

よく考えると現在もイチジクの葉のような宗教はたくさんあります。今日におけるイチジクの葉は、仏教、カトリック教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教および、キリスト教のうちにも洗礼儀式、教会会員制度、その他の宗教労働活動を義務とさせるすべての形態に共通しています。上記に加えて、我々は無神論、環境主義、進化論、自然主義も含めてもいいと思います。これらの信仰制度の全ては、人類が誤りをしていることを分かっているものの、神様が提供してくださる救いの方法以外の手段によってその誤りを直そうとしてしまいます。つまり、世界の宗教は自らの努力と労働を通じて自らの救いを達成することを教えます。しかし、アダムとイブのイチジクの葉とおなじように、罪の問題を解決できません。

## 質問 3: 神様の救いの方法は何でしょうか？

新約聖書『テモテへの手紙一』の第1章第15節は「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた、という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。」と述べています。イエス様への信仰が、なぜ世界のその他すべての信仰制度と異なるのかを、この第15節は示しています。

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」のです。言い換えると、自分

自身で自分を救う方法を罪人に教えるためではないのです。

イエス・キリストは、罪人を救うために生まれてきました。自らの努力と労働を通じて自らの救いを達成することができる人々や善人を救うためにイエス・キリストが生まれてきたのではありません。人は自分自身を罪人としてよく見なしていますが、罪人を救うために生まれた救い主を必要とする罪人ではなく、むしろ様々な人生哲学と信仰制度によって自分で自分の救いを達成することができる罪人としてみなしているのです。この種の人々は、救い主であるイエス・キリストを必要としないのです。

真の罪人である人とは、神様を満足させることができない人であり、自分自身の救いを果たすことができない人です。だからこそ、人は救い主イエス様を必要とするのです。イエス様は、十字架で私たちの救いを果たしました。イエス・キリストの流された血は神様を満足させました。そして、神様は死からイエス様を復活させることによってそのことを証明しました。その結果、今現在、人は十字架で果たされたイエス・キリストの務めに信頼を置くたびに、人は救われるのです。救い出され、すべての罪を赦され、そしてすべての罪から解放させられます。救いは、私たち自身の努力や労働とは無関係です。救いは、かつて十字架で完全に果たされた神様の贈り物です。

#### 質問 4: わたしは救われるために、何をすべきか？

簡単に言えば、イエス・キリストをあなた個人の救い主として信頼してください。そうしたら救われます。そして、神様に感謝し、イエス様を、イエス様の愛と救いをたたえてください。あなたの救い主を楽しんでもっと親しく知るように新約聖書を読むことを薦めます。あなたに向けたイエス様の愛を大いに喜んでください。

しかし、あなたが、イエス様を信頼するつもりはないならば、何があなたの思いを止めているのでしょうか？自尊心に執着する理由などないはずですが。不安がる理由もないはずですが。神様の存在から逃げたアダム、自分自身で救いの道をつくろうとしたアダムのようにはならないでください。あなたは、何も心配する必要はありません。神様は、あなたをとまどわせるつもりはないのです。あなたは行った罪をつぐなう必要はありません。人間の前に罪を告白する必要はありません。苦行をする必要はありません。洗礼を施してもらう必要もありません。教会に入会する必要さえないのです。「私を信じる者は永遠の命を得ている」とイエスは言っていたのです（『ヨハネによる福音書』（欽定訳）第6章第47節）。

まさに今、自分の心で信じてもよいのです。誰かに言う必要さえありません。主イエス様は、完璧な救い主です。イエス様の愛は無条件です。あなたがイエス様の平和と自由を楽しんで味わうことができるように、イエス様はあなたの暮らしの中に働きかけることでしょう。イエス様は、あなたに何も要求しません。あなたの全ての罪はイエス様の十字架のために赦されるのです。イエス・キリストを信じればイエスはあなたの心に働きかけ、あなたの心の中に住みます。そして、罪から解放させられ、自然に良い実を結ばせられます。宗教にするつもりはないのです。このことは、赦しにまつわることなのです。神様と共にいる平和に関することなのです。怖れなしに自然に生きる、愛するための自由と力なのです。

あなたに神様の恵みがありますように。